

第44号 高石市青少年健全育成



高石市青少年健全育成推進会会長
高石市長 畑中 政昭

平素より、本市行政の各般にわたり、格別のご高配を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、青少年とは、まだ成長途中であり、社会経験も浅い存在です。そのため、彼らがどのような価値観を持ち、どのように自分を形成していくかは、地域の皆様方と共にあります。彼らが将来、社会の中で積極的に活躍し、社会貢献できる人間になるためには、家庭や学校、地域社会での支援が欠かせません。特に、こども一人一人異なる日常に寄り添い、愛情を持って見守ること、共に学び、共に成長することが、青少年の成長に大きな影響を与えます。

青少年が健全に育成されるためには、まず基本的な人間関係や社会のルールを学ぶことが重要です。家庭や学校でのしっかりとした教育はもちろんのこと、地域社会でもこどもたちが安心して成長できる環境を整えることが求められます。私たち大人が示すべきは、暴力や差別を拒絶し、他者を尊重する姿勢です。多様性を受け入れ、互いに支え合う精神が、青少年にとって大切な学びとなるはずで

す。

また、青少年に自立心を育てることも大切なポイントです。彼らが将来、社会の中で一人の個人として自信を持って生き抜くためには、自己肯定感を高め、挑戦する力を養うことが必要です。自分の意見を持ち、他者と協力し、困難に立ち向かう力を育むためには、失敗を恐れずに挑戦できる環境と、失敗を許容する社会的な風土が求められます。私たちは、青少年が自分の夢を追い求め、希望を持って未来を切り開いていけるよう、サポートし続けなければなりません。

私たち一人一人が青少年の健全育成に関与し、支援の手を差し伸べるこそが、次世代に希望を与える道だと私は信じています。そのために、私自身も常に学び続け、青少年が安心して成長できる社会作りに努めていきます。家庭や学校での教育、地域でのサポートを通じて、青少年が健全に育ち、社会に貢献できる大人へと成長することを支援していく所存です。

地域とこどもたちの未来を、共に明るいものにするために青少年の健全育成に向けた取り組みを、今後とも、職員一丸となり、青少年健全育成に取り組んでまいりますので、何卒、温かいご理解、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

高石市青少年健全育成推進会とは

昭和50年代、全国的に教育現場での暴力が問題化していました。高石市も例外ではなく、昭和55年、級友らに暴力をふるわれ、お金を脅しとられた中学生が自らその命を絶ちました。また同年、中学生が教師や生徒に乱暴し、傷害、暴行の疑いで逮捕されるという非常に痛ましい事件が相次いで起こりました。

続発する校内暴力に対抗するため、市や教育委員会をはじめ、こども会、PTAなどの各団体が結集し、翌56年、学校、家庭、地域が一体となって青少年非行を防止し、健全に育成する高石市青少年健全育成推進会が設立されました。

昭和61年には、非行やいじめのない社会を築くため、こどもたち自身がめざす目標として、また家庭、学校、地域が一層緊密に連携し取り組むべき指針として「高石っ子憲章」を制定しました。

同会では、毎年研修会や市民大会を開催しています。また、小中学校の児童・生徒が自身の学校生活をよりよくするため意見交換し交流を深める「わたしたちの生活を話し合う会」も行われています。

高石っ子憲章

高石市青少年健全育成推進会
昭和61年7月15日制定

わたしたちは、高石っ子が自ら豊かな社会をつくり出し、たくましく生き抜く人間に成長することを願っています。

そのため、家庭・学校・地域の協力のもと、自由と平和を愛し、正義と秩序を重んじ、たがいに尊重しあう民主的な人間に育つことをめざして、この憲章を制定します。

- 1. 高石っ子は、ひとりひとりかけがえのない人として、たがいの人権を尊重する人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、自ら学び、考え、判断し、豊かな創造力とひろい心をもった人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、自然や人間のいとなみに感動し、生きることに感謝し思いやりのある人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、いかなる困難にも立ち向かう意志の強い人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、家族のふれあいを大切にし、家族の一員としてよりよい家庭を築きあげる人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、あらゆる活動の場を通して、豊かな体験を積み、心身共に健康な人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、人や郷土・地域を愛し、社会に役立つ人間になりましょう。
- 1. 高石っ子は、歴史と文化を大切にし、国際感覚を身につけた人間になりましょう。

私たちの生活を話し合う会

～わたしたちの学校園生活をより楽しくするために～

今年度のテーマ「いじめのない学校をつくるために」

毎年、小学校・中学校が連携して開催されています。今年度で40回を迎え、令和6年12月23日（月）に高石市役所多目的ホールで開催されました。高石市立の小中学校から児童生徒の代表が集まり、各学校のいじめを許さない取組についての発表、交流を行いました。以下は、各学校の発表の概要です。

高石小学校の取組

「みんなで仲良くハッピースマイルデー」
みんなが仲良く毎日ハッピーに笑顔で過ごすことで、いじめはなくなるのではないかと。という共通の認識のもとに、みんなで楽しめる活動を考え、取り入れて行動しよう。



▲あいさつ運動
あいさつレンジャーが正門に立ち、みんなハイタッチをすることで笑顔になって、よい1日のスタートができました。



▲高小スマイルフレンド活動
自分ができることは何か決意表明し、1日の終わりに振り返って、取り組めていたらシールを貼る。

羽衣小学校の取組

「あいさつ運動」「生活目標の決定」「羽衣祭りの企画・主催」「防災フェスティバル等の司会」「グループパトロール」などを行っている。

羽衣小学校『やさしさの花を咲かそう～いじめNO宣言～』をして、いじめについての劇を作りクラスルームで配信した。ささいなトラブルや誤解からいじめに発展しないために、「自分の気持ちを伝えよう。相手の気持ちを受け取ろう。」を考えながら『いじめNO宣言』を書き、一人ひとりの思いがやさしさの花になるよう貼り付けて、1階玄関に掲示した。



▲やさしさの花

取石小学校の取組

「ハッピースマイル」を目標として、皆が笑顔で平和な学校をめざして活動しました。スマイル・プロジェクトと題して、3つの取組をしました。

取組の流れは、①いじめについての劇②言葉を大切にしよう週間③縦わりキーワード探しを行いました。

児童会による劇を見た後にクラスで話し合い、いじめを減らすためには言葉が大切だということに気が付きました。「言葉を大切にしよう週間」ではふわふわ言葉とちくちく言葉をポストで集め、お昼の放送で紹介しました。最後に、校舎や運動場に隠したひらがなを縦わり班で探し、みんなが笑顔になって活動を締めくくることができました。



▲ふわちくポスト



▲縦わりキーワード探し

高陽小学校の取組

「いじめのない学校」をめざして、1学期は、みんなが相手の事を気遣い、細かな気配りができれば『いじめがなくなる』と考え、「ジェントルツリー」という取組をしました。

2学期はいじめの4層構造について、いじめは「加害者」「被害者」「観衆」だけではなく「傍観者」も被害者からみたら「いじめをされているのに助けてくれなかった」となり、いじめに加担していることだと劇を通じて伝えました。

3学期は「ピンクリボン運動」を実施します。「ピンクシャツデー運動」からヒントを得て絵本「いじめだよ」を読ん

- いじめをしない。(いやなことをいわない等)
- こんなこともいじめだと知った。
- いじめ反対についてみんなに一言。
- いじめのない学校をつくるためにすること。

などを折り紙で折ったピンクシャツに書いて職員室前に掲示しました。



▲ジェントルツリー



▲ピンクシャツ

東羽衣小学校の取組

学校目標「あかるく」「おもいやりふかく」「ねばりづよく」に向けて児童会役員や学級代表を中心となり、それぞれの熱い思いを花に書いて「決意の木」に貼り付け、学校づくりへの思いを表明しました。

各学期で学校目標のそれぞれの標語を考え、校内に掲示しています。また、「ねばりづよく」をもとに、百人一首大会を開催したり、パソコンクラブ主導でタイピング大会などを開催したりしました。どの学年の児童も自分の目標に向けてコツコツと頑張る様子が見られました。



▲決意の木



▲百人一首大会

加茂小学校の取組

「あいする加茂小」（あいさつをする、いじめをなくす、すごくきれいにする、るんるん登校できる）を合言葉に、「あいさつ運動」や「ブルーバード運動」（いじめをしないと宣言した紙を青い鳥の形にして校内掲示）を実施した。また、「にしいろ時間」で6年生が中心となって異学年の交流をしたり、なわとび朝礼でも縦わり班で教え合ったりするなど縦の繋がりを深めた。



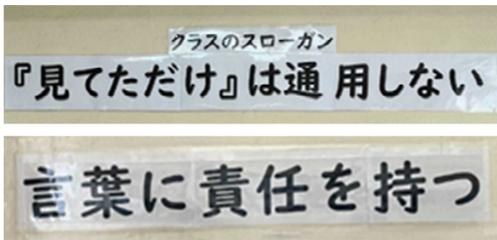
▲ブルーバード運動



▲縦わり活動

高石中学校の取組

各クラスのいじめゼロスローガン



いじめをなくすために、生徒会からクラススローガンの作成を提案した。クラスで話し合い、みんなでできることをスローガンとして考えて、クラスごとに決め、いつでも意識できるようにそれぞれの教室に掲示した。

また、みんなが気持ちよく、楽しく過ごせる学校にするため、毎週水曜日の2時間目と3時間目の間の休み時間に『2minutes Cleaning』という清掃活動を行ったり、給食中に学校での出来事やプチニュース、豆知識、リクエストミュージックなど、生徒会本部のメンバーで内容を考えた『生徒会ラジオ』を放送したりしている。

高南中学校の取組

高南中学校ではSDGsにちなんで、未来に向けてみんなが快適に過ごしていける学校づくりに向けて取り組みたい、持続可能な高南中学校の目標SKGs (Sustainable KONAN Goals) として、①他者を理解する②物を大切に③思いやりの心を④けじめのある行動を⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥居心地の良い学校づくりの6つの項目に沿って活動している。

活動内容は、他者理解をテーマにした生徒学活の実施、昼休みのボランティア清掃、募金活動などを行った。また、学校生活の中で見つけた「ありがとう」という行動を投函する「ハピネスボックス」、学校で困っていることや要望を投函できる「目安箱」、そして新たに悩みを相談できる「お悩み相談ボックス」を設置している。投函された内容に関しては、毎週金曜日のお昼の放送で生徒会が回答している。



▲生徒たちのSKGsに向けた宣言

清高小学校の取組

児童会としての活動は、毎月、初めの一週間、あいさつ運動をしたり、夏休みの過ごし方の〇×クイズをしたり、児童朝会の司会や募金活動を行った。

児童会の活動の中で、いじめをなくすためにどうすればよいかを話し合った。その中で児童たちから出たアイデアを今年度は取組として進めた。①いじめはダメという動画を作り、全校児童に見てもらおう。②アンケートをとる。③クイズ形式でいじめについて考えられるようにする。様々な活動を通して、今の学校にいる児童たちの実態を把握してそれに対して取組を実施した。

いじめをなくすための取組を話し合い、ポスターの掲示、「いじめは絶対にだめ！」という劇の制作、されて嫌だったこと・されて嬉しかったことを書いてもらうポストの設置、児童朝会での「いじめ」についてのスピーチを行った。



▲クイズを考えている様子

取石中学校の取組

Shining Smile School

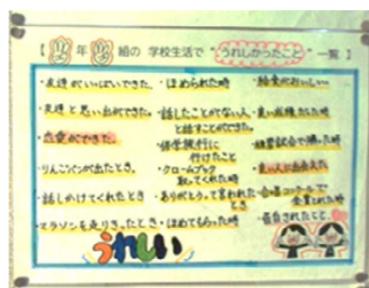
1人ひとりが輝く笑顔がたくさん作れる学校に、全校生徒が何事にも全力で取組楽しみを分かち合えるように、を目標として掲げ、それを実現するために生徒会が中心となって取組を行っている。

1学期には「全校生徒 全力で」というスローガンを掲げて、誰一人取り残さない全校生徒が主役という目標を持っていじめアンケートを行った。その集計結果から、

- ①【嫌なことがあった時に相談しにくい】
- ②【コミュニケーションをとるのが苦手と感じている生徒がいる】ということが分かり、お互いの気持ちのズレやすれ違いがきっかけとなって、いじめにつながるような雰囲気が出来てしまっていると考えた。各クラスで生徒学活を行い、「嬉しかったこと」を出し合っ、学校の玄関に掲示して全クラスの想いを共有した。

2学期は【 Shining Smile School 】を実現するために、応援キーホルダー作りを生徒会学活にて全校生徒と教員で協力して作成し、シャッフルして取石中学校全員に配布した。

全校生徒が安心して、いじめのない【 Shining Smile School 】1人ひとりが輝く笑顔がたくさん作る活動をしていくことができるように生徒会を中心として活動を続けていきます。「いじめは絶対にあってはならない。許してはならない」を基本として、取石中学校や学級の良いところを増やし、学校生活がもっと楽しく素晴らしいものになるよう「笑顔があふれる学校に」を目標とした。学校・学級・クラスメイトの良いところアンケート、あいさつ運動・募金活動を行った。また、取石中学校の現状や抱えている課題を出し合い、解決策を話し合う「リーダー研修」を行い、その結果を生徒集会で発表した。



▲嬉しかったこと



▲応援キーホルダー

青少年健全育成推進会の主な取組

高石市青少年健全育成推進会では、次代を担う青少年たちが健やかに成長するよう、いろいろな取組を行っています。

令和6年度高石市青少年健全育成推進会事業報告

令和6年

★街頭指導

市内各小学校別に毎月1～2回実施（通年実施）
青少年健全育成の啓発推進及び愛の一声運動等を行うとともに、青少年のたまり場となりやすい場所を巡回し、非行防止と健全育成を図る。

7月

★役員会

令和5年度事業報告
令和6年度事業計画

★青少年健全育成市民大会・社会を明るくする運動

場 所：たかいし市民文化会館小ホール
参 加 者：74名
内閣総理大臣メッセージ朗読
高石市保護司会会長 中谷 正彦
講 演：「思春期の子どもたちへの関わり方」
講 師：大阪法務少年支援センター（大阪少年鑑別所）
地域教育支援調整官 山口 剛氏

11月

★青少年健全育成強調月間 ポスター掲示等による広報活動

12月

★わたしたちの生活を話し合う会 テーマ：「いじめのない学校をつくるために」 参加者：市内小中学校の児童生徒代表

令和7年2月

★学校問題研修会 テーマ：「子供たちの身近な依存症と教員が知っておくべき思春期心性」 講 師：関西医科大学 精神神経科 講師 池田 俊一郎氏

高石市青少年健全育成推進会構成団体名

(順不同)

- | | |
|----------------|---------------|
| 高石市 | 高石市内ガールスカウト |
| 高石市議会 | 高石市連合自治会 |
| 高石市教育委員会 | 高石市PTA連絡協議会 |
| 高石警察署 | 高石市社会福祉協議会 |
| 貝塚子ども家庭センター | 高石市婦人団体協議会 |
| 堺少年サポートセンター | 高石市母子寡婦福祉会 |
| 高石市内幼稚園 | 高石市少年補導員 |
| 高石市内認定こども園 | 高石市こども会育成協議会 |
| 高石市内小学校 | 高石市スポーツ少年団 |
| 高石市内中学校 | 高石市文化協会 |
| 高石市内高等学校 | 高石市体育協会 |
| 高石市内専門学校 | 高石商工会議所 |
| 高石防犯協会 | 高石ロータリークラブ |
| 高石市保護司会 | 高師浜ロータリークラブ |
| 高石市更生保護女性会 | 羽衣ロータリークラブ |
| 高石市人権協会 | 堺・高石青年会議所 |
| 人権擁護委員 | 高石交通安全協会 |
| 高石市民生委員児童委員協議会 | 高石中学校区地域教育協議会 |
| 高石市社会教育委員 | 高南中学校区地域教育協議会 |
| 高石市青少年指導員協議会 | 取石中学校区地域教育協議会 |
| 高石市内ボーイスカウト | |

学校問題研修会（講演）

日 時 令和7年2月4日（火）
場 所 高石市役所別館3階 多目的ホール
テーマ 「子供たちの身近な依存症と教員が知っておくべき思春期心性」
講 師 関西医科大学 精神神経科
講師 池田 俊一郎氏

【依存症との関わりとは】

毎朝の挨拶を含めた普段の関わりが依存症の治療となる。何でも話せる。何をやっても怒られない。何を言っても批判されない関係性という心理的安全性が重要である。

【なぜ依存症になるのか】

分かっているけどやってしまうという人間の感情が依存症につながっていく。乱用、依存、中毒というのは自分でコントロールできない。人間の脳は、気持ちいい、我慢できないという時に人間の行動に影響を及ぼすドーパミンが脳を刺激し、幸福、快樂、依存症に繋がる。

依存症は、普段疲れている人、孤独な人、普段褒められていない人、優しい言葉をかけられていない人、自己評価が低い人、人間不信の人がなりやすい。

SOSの兆候としては、化粧が派手になる、急に痩せてきた、また、寝ていない、疲れているように見えてくるようになる。

【薬物依存の現状】

近年、薬物依存の傾向が大きく変わってきた。これまでは睡眠薬などの処方薬がほとんどだったが医者が処方しなくなってきたため、風邪薬などの簡単に入手できる市販薬が台頭し大量に服薬するようになっていく。

薬物依存をする理由は、以下のとおりである。

- 1位 ひどい精神状態から解放される。
- 2位 死にたかった。
- 3位 どれほど絶望的だったか示したかった。
- 4位 誰かに愛されているのかを知りたかった。

【身近な依存症】

一番身近な依存症はスマホ依存である。ベッドサイドなどでいつまでもSNSや動画などを寝ながら見ていると睡眠障害になり学業なども疎かになっていく。

スマホ依存から脱却する方法はベッドサイドで充電をしないこと。

現代では必要不可欠なツールではあるが、眠るときには必要がない。

【行動を修正するための基本】

子どもを感情的に怒ったり、注意したりしても恐れられるだけで、有効ではなく、またその時の感情は残存する。

感情的にならずに冷静に言語化しないと有効的な会話にならないため注意が必要。

子どもがSOSを出した時には、必ず背景にある相互作用を感じてほしい。見えている部分は氷山の一角である。

人に癒される効果は大きい。人を信じられるようになると人に癒されるようになる。人に癒されるようになると薬物で酔う必要がないともいえる。

